

十勝地区国際理解教育研究会

# 事務局だより NO. 1

発行者 十勝地区国際理解教育研究会事務局 発行日 平成19年 月 日  
連絡先 事務局長：山川修（上士幌町立上音更小学校：上士幌町字上音更東1線 274TEL01564-2-3840）

## 海外事情報告会～カイロから・広州から～

秋晴れの9月22日、北海道国際センター帯広で「海外事情報告会」が行われました。

この日の報告は、3年間の在外教育施設勤務を終えて今春帰国された稲葉珠樹先生（鹿追町立鹿追中学校：元カイロ日本人学校教諭～教頭）と小室彰人先生（清水町立清水中学校：元広州日本人学校教諭）のお二人からでした。

## ピラミッドとスフィンクスに見守られて



カイロ日本人学校は小中学生合わせて42名（平成19年3月）、学校のすぐそばには世界遺産

「ギザの3大ピラミッド」がそびえています。

カイロは、ナイル川から水を引く運河に潤された豊かなうちが広がる一方、喧噪に包まれた大都市に様々な文化が共存している街です。カイロ日本人学校では、「ピラミッド持久走」「さばくハイキング」などの特色ある行事や、日本の文化を忘れないための日本的な行事も多数行われていました。



ラクダに乗った校長先生が学校紹介

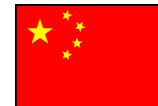
稲葉先生は、派遣2

年次には中学2年生の担任をしながら教務主任、3年次には教頭職の廃止に伴って臨時の教頭をつとめるなど、激務の3年間を過ごされました。日本人学校の教頭でありながら授業も持ち、更に管理職として、大使館との連絡調整、現地職員の給与査定、文科省への報告など、大変忙しく責任の重い日々を送られていたそうです。



「過酷でしたが充実した日々でした」

## 悠久の歴史・急速な開発



「中国の広い懐に包まれた3年間でした」

北京オリンピックを控え、ますます発展が進んでいる中国。広州市は、北京・上海に次ぐ中国第3の都市です。

1995年、広州日本人学校が開校した当初は、児童生徒数が19名でしたが、2005年に10周年を迎える頃には250名に迫る規模となりました。日系企業の進出を中心に工業化・都市化が進む広州、貧富の差も激しく、都市にはいろいろな顔が見られます。しかし、街の人はみんな温かく、日本で報道されているような反日デモがあっても、個人

レベルでは冷静な対応がされているとのことでした。

他の日本人学校と同様、学校に寄せられる保護者の期待は日本以上に高く、プレッシャーも並大抵ではなかったようです。しかし、「食都広州」のおいしい料理と広くて深い文化を楽しむ小室先生の姿に、バイタリティーあふれた3年間の教育活動を感じさせられました。

## 研究大会迫る

今年度の研究大会の要項は、ご覧になりましたか。

期日は10月10日（水）、会場は芽室小学校と芽室中学校です。公開授業の後、午後には貴重な実践報告もあります。ちょうど学習発表会の準備などでお忙しいことと存じますが、年に1度の研究大会、ぜひご参加下さい。

早めの申し込み連絡をお願いいたします。

## 会費の納入をお願いします

こちらが文書が届いていることと思いますが、研究大会が開催されることもありますので、早めの振り込みをお願いいたします。

大会会場当日、受付で直接お支払いいただいてもけっこうです。



よろしく  
お願いします